

198

演題名： 包括的ダイナミック解析による先天性血友病 A 患者の凝固線溶動態の特性
サブタイトル：先天性血友病 A の凝固線溶能を測定する。

所属：1. 天理医療大学 臨床検査学科、2. 奈良県立医科大学 小児科
氏名：松本 智子^{1, 2)}、野上 恵嗣²⁾、嶋 緑倫²⁾

凝固波形解析(CWA)はフィブリン形成や溶解過程を評価できる包括的ダイナミック測定法である。教室で確立した t-PA を添加した凝固線溶波形解析(CFWA)を用い先天性血友病血漿 (インヒビター無/有)における凝固線溶動態について検討した。患者血漿にAPTT試薬添加の後 t-PA (0.63 μ g/mL)と CaCl₂を同時に加え CFWA を実施した。凝固動態は凝固時間(CT ; sec)/最大凝固速度(|min1|)/最大凝固加速度(|min2|)、クロット溶解動態は CT より溶解開始までの時間(FLT; sec)/溶解ピーク値(|Peak FL|)/溶解反応総量(FLV)により定量的に解析した。正常血漿のパラメータ平均値は、CT/|min1|/|min2|:FLT/|Peak FL|/FLV; 32.9/3.00/0.480:123.9/0.23/280.7 だった。インヒビターの無い FVIII:C <1.0 IU/dL 血友病 A(HA)血漿 10 例は、CT/|min1|/|min2|:FLT/|Peak FL|/FLV; 107.7/0.87/0.035:65.2/0.25/471.2 で、インヒビター保有血友病 A(HAi)血漿 10 例では、122.2/0.45/0.010:70.1/0.25/358.9 だった。HA/HAi では両群ともに CT の延長、|min1|と |min2|の著明な低下のみならず、FLT の短縮や FLV の増

加を認め線溶波形は二峰性を示した。特に HAI 群では凝固相における |min1|と |min2|はインヒビター保有しない群よりも低値を示したが、クロット溶解動態は両群でほとんど差を認めなかった。以上より、血友病 A ではインヒビター有群の方が強く凝固能を障害された。溶解能はインヒビターの有無に関わらず、FVIII 非存在下ではフィブリンクロット溶解に対する血栓の脆弱性によって止血異常の一因になると考えられた。今後、血友病 A の FVIII 存在下における凝固線溶動態の影響について、さらに詳細な検討が必要だと考えられる。